
ネコの休日

佐野幸弘

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ネコの休日

【Nコード】

N6201H

【作者名】

佐野幸弘

【あらすじ】

駐車場で見かけたネコは、不自然なまでのネコらしさをもっていた……ふとした日常の一コマから、ネコのちょっとした気苦労を描いた作品です。

この頃、たまにネコになりたいな、と思うときがある。

別にネコを何かの、たとえば自由を謳歌するものの象徴として、自分もそんなふう生まれ変わりたいとかいった、哲学的な意味あいでは無い。

ただ、ふとネコになってみたいと思うのだ。

強いて理由を挙げるなら、ネコの持つあの「ごろにゃん」という擬音がピッタリと当てはまる、のんびりとした気楽な時間を味わいたいのもかもしれない。

そんなことを考えながら歩いてみると、駐車場の奥のほうで、一匹の猫が寝そべっているのが視界に入った。時刻は既に夜の8時をまわっていた。ネコは街頭の明かりからほんの少しはずれた場所にいた。顔を覗き込もうとしたが、僕の位置からは陰になっている。僕はちよつとした好奇心に駆られ、そつと近づく。

そのネコは綿菓子のようなふわふわとした毛を持ったミケネコで、首輪をしていなかった。野良猫なのだろうが、そのふっくらとした体つきと、健康そうな毛並みを見たところ、ゴミを漁ってその日暮らしをしているという感じはしなかった。

案外ここの人気者で、餌をくれるパトロンには不自由をしないのかもかもしれない。

僕は一步一步、気づかれないように距離をちぢめた。

そのとき、クシャという音がひとけの無い駐車場に響いた。枯葉を踏みつけてしまったのだ。

僕がスツと視線をネコのほうに向けると、それに合わせるようにネコの顔をあげた。当然の訪問者に呆気にとられたその表情は、まるでネコらしくなくて、芸能人が、遊んでいるところを写真週刊誌に撮られてしまった時に見せるような、彼の素の顔つきだった。

もう一步近づこうとすると、彼はふつと我にかえり、わずかに後ずさりをした。その面持ちはもうすっかりネコのものになっていた。僕は敵意の無いことを示すために体をかがめ、持っていたお菓子をネコの鼻先に転がした。ネコは僕をなめまわすように観察した後、警戒心を解いたのか、ずいっと身を乗り出し、アスファルトに転がるお菓子を器用に食べた。

僕はその行為に、つい自分の目的を忘れそうになった。そういえば、僕はネコになりたいのだ。つまり、いま、お菓子をおいしそうにほおばっているこのネコは、僕の見本ともいえるのだ。

そういつた視点でこのネコの行動をつぶさにチェックすると、自然なこと気がついた。彼の動きはネコそのものだった。見知らぬ僕に警戒を抱きながらも、エサの魅力に抵抗できずついつい食べてしまう。僕が喉元をなでると嫌がるでもなく、少しはにかむような笑顔を浮かべる。小さな物音にビクッとする。他にも彼の「ネコらしい」動きは枚挙にいとまがなかった。

けれど、そのネコらしさは、あまりによどみがなく、完璧すぎた。それは僕が、ネコとはこうあって欲しいと思う姿だった。

改めてネコの顔を覗き込む。彼の顔には、僕の部下にも見習わせたいくらいの、100点満点の営業スマイルが輝いていた。

僕は2、3回ネコの喉元をなでると、残っているお菓子を全て地面においた。

「きつと、さっきのゆるんだ表情がお前の本当の顔なんだな」
毎日をあくせくすることなく、のんきに生きているだけだと思っ
ていたネコの、隠れた努力を垣間見たきがした僕は、一人で勝手に納
得すると、家路につくことにした。いや、そうするように見せかけ
た。

僕はネコに背を向け2、3歩と歩いた。そして4歩目を踏み出すと
同時に、最高速でぐるり振り返った。

僕の一世代の演技に騙されていた彼は、さっきと同じ、素の表情
を出していた。僕は彼の顔を見つめる。彼は知ってるのなら先に言
つてくれよ、と今にも口に出しそうな顔をしていた。

彼はもう僕に愛想を振りまく必要性を感じなくなったのか、
黙々と残りのエサを平らげ、ゴロリと横になってしまった。

僕はそのあまりの現金さに、自分だったらここまで割り切れないだ
ろうなと思い、思わずふきだしてしまった。

おそらく、僕には彼ほど上手に何かを演じることなんてできやしな
いだろう。僕がネコになるには、もう少し修行が必要みたいだ。

ただ、人間には休日があるが、ネコには休日が無い。

その分だけ、ほんの少し人間は気楽だ。しばらくは人間のままでい
いな。僕はそう思った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6201h/>

ネコの休日

2010年10月9日12時51分発行